弁があった。

経 済 委 員

とおり可決すべきものと決定し が付託され、全会一致で原案の 第二号)について一件の議案 平成18年度一般会計補正予算

収穫した菜種から菜種油を搾油 六十三アールに菜の花を栽培し、 円余について、市当局から、遊 するとともに、計画地域などで 山市郡地内の遊休農地三カ所約 休農地解消の一方策として、 遊休農地対策事業費二十七万 尚

使用された菜種油等の廃

助されるとの説明があっ 識の向上を図るもので、 境の保全に関する市民意 県から三年間を期限とし めることで、農地及び環 循環システムづくりを進 車等に使用するなど資源 ィーゼル燃料として農耕 食油を精製し、バイオデ て事業費の二分の一が補

環境問題にも取り組む以 これに対し委員から、 資源循環の輪を維持

> 対応を考えたい、との答弁があ を十分吟味した上で、その後の 三年間の実施後、関係者の評価 を併せての啓発事業でもある。 るが、循環型社会への取り組み 業は遊休農地対策が第一義であ ら事業を実施してほしい、との るかについて、十分考慮しなが 補助が終了する三年後にどうす 意見があり、 できる内容にすべきであり、 市当局から、 本事

> > が付託され、一議案は賛成多数 起についてほか四十五件の議案

損害賠償請求に係る訴えの提

建

設

委

会

費のかからない、より一般的な との意見や、県と連携し、事業 する岡山市全体の問題として、 遊休農地対策の検討も行ってほ 持ちながら取り組むべきである。 全庁的な体制を構築し整合性を また委員から、 との要望があった。 環境保全に対



都市緑化フェア推進事業

に同意すべきものと決定した。 会一致で原案のとおり可決並び で、その他の議案については全

との要望があった。 今後、それらの機運を盛り上げ あるが、現時点ではまちづくり と同時に、西大寺のまちづくり られない。また、都市緑化フェ 見せたが、本市ではそれが感じ るための施策を検討してほしい の理念もあまり見えてこない。 についても併せて考える必要が アを成功させるための取り組み アでは市民運動が盛り上がりを 大阪で先般開催された緑化フェ 三万円余について、委員から、 化フェア推進事業費五千六百十 般会計補正予算中、 都市

小規模工事賠償問

する議案に関連して委員から、 損害賠償請求に係る訴えを提起 を与えた三業者一個人に対し 小規模工事問題で本市に損害

> ことについて適切に情報公開す との意見があった。 報公開の仕組みづくりを望む、 保たれない。しっかりとした情 る制度をつくらないと公平性は 切な情報公開がなされていない こともあり、 どからさまざまな圧力がかかる ためだ。規模の大きい工事案件 このような問題が起きるのは適 などは職員に対し議員や業者な 圧力をかけてきた

文 教 委

会

とおり可決すべきものと決定し が付託され、全会一致で原案の (第二号) について一件の議案 平成18年度一般会計補正予算

地域安全ネットワーク 構築推進事業

弁があった。 学校協議会で取り組むこととし あり、市当局から、学校部会や 者は実質的に既存のPTAと変 てもらうよう改めたい、との答 ているが、今後、こうした組織 がりが見られない、との指摘が わりがなく地域の他組織への ついて、委員から、事業の申請 進事業費補助金千百八十万円に 地域の団体の代表者に入っ 域安全ネットワーク構築推

> との要望があった。 業を実りあるものにしてほし 内容についてはよく精査し本事 取り組みがなされており、 域においてはすでにさまざまな さらに委員から、現在、

学校園舎耐震化 優先度調査

優先し、 安心して避難できるようにして り一つの体育館は耐震構造とし、 委員から、せめて中学校区当た っていきたい、との説明があり 避難所ともなる体育館の改修を について、 する測量設計等委託料八百万円 に向けた優先度調査を行おうと を有する中学校について耐震化 ス等を総合的に勘案しながら行 の耐震化については、 耐震基準で建設された校舎 耐震性能、地域バラン との要望があった。 市当局から、 災害時の 調査後

※マニフェスト制度 産業廃棄物の適正な処理を推 進する目的で定められた制度。 廃棄物の種類や数量、収集運搬 たマニフェスト伝票を用いて廃 棄物処理の流れを確認できるよ うにし、不法投棄などを未然に 防ぐためのもの。